# 和文主題(フォントはゴシック16pt)

## 和文副題（フォントはゴシック14pt）

●音村　一郎
OTOMURA Ichiro
サウンドスケープ大学
Soundscape University

●歌田　響平
UTADA Kyouhei
金沢音楽大学
Kanazawa College of Music

●著者人数が3名以上になる場合はこの表を下に追加してください。

キーワード：明朝、10pt、5語前後

要旨

**このテキストは日本サウンドスケープ協会研究発表会後援論文の原稿執筆見本である。この見本の上に各自のテキストを流し込めば所定の書式の原稿ができる。元の原稿がMS-WORDである場合は、テキストを貼り付ける際に書式ごと貼り付けないように気をつける必要がある。文章は一度プレーンなテキストファイルとして保存してから貼りこむか、このファイルの上から直接書き込むようにした方が間違いが少ないと思われる。**

**資料の書式は協会誌に準じることとし、分量は2ページから10ページとする。本文の前には和文要旨を付す。要旨の内容は申込時のものから変更してかまわない。**

## 1 原稿提出の基礎事項

原稿は見本ファイルに指定する書式によって、図表も割り付けたうえで、電子ファイル（PDF形式）にて提出する。原稿は原則としてそのまま公開可能な版下原稿とする。

### 1.1 ページ数

原稿のページ数は2ページ以上10ページ以下とする。

### 1.2 割付等

余白は上下が35mm、左右が25mとする。段組は1段組とし、行数43行、1行の文字数は45文字を標準とする。和文要旨ならび5語前後のキーワードをつける。これらを本文、図表、註とともに所定のページ数に収める。

## 2 本文の書き方

書式は見出しなどのスタイルを指定することでほぼ自動的に設定される。例えば註は「註」というスタイルを選択すると自動的に片括弧の箇条書きに設定される。

ヘッダやフッタは実行委員会において編集するので特に手を加える必要はない。

### 2.1 フォント

この見本ファイルに修められている通りのフォントタイプ、ポイント数を用いる。和文主題はゴシック・16pt、和文副題はゴシック・14pt英文主題及び副題はTimes New Roman・14ptとする。Windowsのフォントを想定して書いているが、それ以外のOSを用いる場合にはこれに近い一般的なフォントに置き換えて作成すること。

### 2.2 図表

図、表それぞれ別の通し番号とし、必ずキャプションをつける。図表が多数にわたる場合は、枝番号を(a)(b)のように付けてかまわない。凡例は図中に示すか、キャプションとともに示すようにする。

図表の中で用いる書体は本文に準ずるが、状況に応じてポイント数や修飾などを変えてもかまわない。見にくくならない様に大きさに気をつけて作成されたい。

図表の例を以下に示す（表1及び図1）。図表は原則、中央に配置（センタリング）すること。

表1　書式一覧

| スタイル | フォント・ポイント |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 和文主題 | MSゴシック16pt |
| 和文副題 | MSゴシック14pt |
| 英文主題・副題 | Times New Roman 14pt |
| 要旨（見出しは太字） | MSゴシック10pt |
| Summary（見出しは太字） | Arial 10pt |
| 見出し1 | MSゴシック12pt |
| 見出し2 | MSゴシック11pt |
| 本文（標準） | MS明朝10pt |

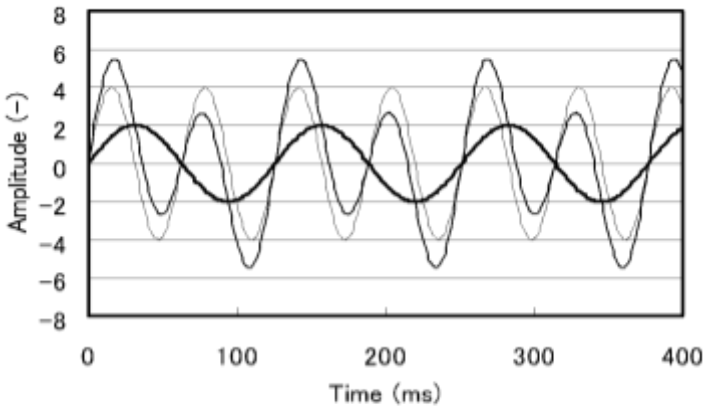



図1　例えば音波の波形の様子

2.3 註の書き方

註は、通し番号とし、本文中の該当個所に引用順に番号をつける（上付き片括弧）。例えば、・・・・・・といわれている[1)]。末尾文献表には番号順に注を列挙。引用文献、参考文献は註として扱う。

文献の引用の提示の仕方は、雑誌の場合「全著者名：表題，雑誌名，巻（号），頁－頁，年号」とする。図書の場合「全著者名：『表題』（出版社、地名、年号）頁－頁．」とする。

註　・・・以下はすべて例

1）笛吹童子，静御前：鎌倉・戦国時代の音楽，桃山文化，12（3），45-67，1598.

2）K. Star: The damage risk criteria for keeping silence in USA, Amer J Sound Vib, 6(9), 1-11, 1998.（略称した雑誌名は、The　American Journal of Sound of Vibrator です。ただし架空）

3）前掲　1）p.48.

4）金城桃治：『琉球列島の音風景』（八重山書店、石垣、1990）26-39.

5）R. Carson: Silent spring, (Fawcett Books, Greenwich, 1962) 22-33. ・・・翻訳の場合　全著者名（訳者）：『表題』（出版社、地名、年号）頁－頁.

6）　M. ルインスキー（星憲司訳）：『ワシントン広場の声』（白亜社、東京、1999）287頁．・・・原題をつけるならM. Lewinsky: "How to be an intern" (White House Pub., NY, 1998

7）徳川慶喜、西郷隆盛：蛤御門の変における砲撃音の周波数分析．桂小五郎編『音でとらえる明治維新』（江戸屋書房、大阪、1880）44-55頁所収．・・・)分担執筆の一部を引用するとき　全著者名：表題．編者（あれば）『表題』（出版社、地名、年号）頁－頁所収.

8）K. Hiramatsu: Nordic soundscape as encountered by a Japanese, Skandinaviska Musikaliska Tidskrift, 158, 77-88, 1989. 中河　真『平城京　音の曼荼羅』（十津川出版、奈良、1999）88頁に引用．・・・孫引きのとき　原著者名：表題，雑誌名，巻（号），頁－頁，年号．（執筆者があたった文献の）著者『表題』（出版社、地名、年号）頁－頁に引用.

9）R.M. Schafer:" Quantum theory of soundscape" (DDT Inc., Toronto, 1984) Cited in A. Einstein: "Quantum physics"(PCB Press, London, 1989) p.22.

10）